

## JAつがる弘前自己改革取組宣言

これまでも、これからも、地域とともに  
JAつがる弘前は「総合事業」を展開します

農業者の所得増大、農業生産の拡大、地域の活性化に取り組みます。

このため、協同組合の原点に立ち、組合員の皆さんとの話し合いを深めます。

そして「総合事業だからこそ」の強みを活かし、地域にとってなくてはならない組織  
であり続けます。

協同組合とは、組合員の一人ひとりが力をあわせ、みんなの願いをかなえていく組織です。

JAは、農業者（正組合員）が組織する協同組合です。農業者の営農と生活を支えるため、様々な事業を総合的に展開しています。農業者の所得向上や地域農業の振興を目的に、農産物の販売や、信用事業（JAバンク）、共済事業（JA共済）などの様々な事業を、営農相談やくらしの相談活動を通じて、総合的に結びつけ、地域農業の振興や地域づくりに取り組んでいます。

農業者以外の方で、地域農業の発展や地域づくり、ニッポンの食を応援していただける方は、地域農業の応援団として准組合員として加入いただいております。

信用事業や共済事業などを含めた総合事業全体の収支のなかで実施しているからこそ、JAの経営基盤が安定し、営農指導員の配置や多額の農業施設投資が可能です。

いわば、農業者と地域農業の応援団で、JAの総合事業を通じて地域の農業とくらし、みんなの願いをかなえる取り組みを支えあっています。

主な取り組みを次により紹介します。

## ● 農業者の所得増大

### 1. 「生産コスト削減」

- 肥料・りんご袋に特別価格品目を設定し、良質かつ低コスト資材の取り扱い強化。  
【肥料1袋あたり70円～260円安く設定/平成31年用取扱金額2億円】  
【りんご袋1把あたり38円～50円安く設定/平成31年用取扱金額1億円】
- 水稻農薬（除草剤）の大型規格品取り扱いによる、生産コストの削減。  
【水稻農薬（除草剤）1kgあたり419円安く設定/平成31年用取扱金額1,600万円】

### 2. 「農産物販売力の強化」

- りんご海外輸出向け出荷の拡大。  
【平成31年3月末までに256,388ケースを輸出（昨年同期比107%）】  
【平成30年産では新たに「トキ」「王林」のピンコ（小玉果）を取り扱い/  
トキ取扱量65t・販売金額1,600万円、王林取扱量23t・販売金額439万円】
- 高付加価値化商品による所得増大。  
【りんごで初めて「内臓脂肪を減らす」と表示し販売することが可能となった  
（ネーミング：プライムアップル！（ふじ・王林））/  
ふじ販売金額501万円、王林販売金額306万円】
- 重点品目作付拡大と産地化の推進による園芸作物販売金額の増大。  
【平成30年ピーマン取扱量205t（昨年比90%）、  
販売金額1億942万円（昨年比136%）】  
【平成30年にんにく取扱量58t（昨年比416%）、  
販売金額7,265万円（昨年比366%）】  
【平成30年ミニトマト取扱量240t（昨年比116%）、  
販売金額1億9,662万円（昨年比133%）】  
【平成30年桃取扱量98t（昨年比77%）、販売金額4,871万円（昨年比103%）】

### 3. 「利益の還元」

- 剰余金に応じた積極的な利益の還元。  
【平成30年度 出資配当2,266万円、事業分量配当7,500万円】

## ● 地域の活性化

### 4. 「くらしの活動の拡大」

- 食農教育として、次世代へ「食」と「農」を広く周知する「農業塾」を全学年で実施。  
【管内7校中3校で全学年実施】
- 地産地消の拡大に向け、直売所での地場産品販売を通じた地域消費者へ安全・安心の提供。  
【直売所4店舗 イベント活動6回実施（一部店舗では8回実施）】

## ● 組織・経営力の発揮

### 5. 「組織の強化」

- 農作業の労力軽減に向けた作業請負・労力確保等の営農支援の強化。  
【無料職業紹介所の開設/  
平成30年度求人登録28件、求職登録31件、内マッチング成立20件】  
【葉とらずりんごの集荷拡大/  
平成30年産ふじ374,367箱/20<sup>キ</sup>原箱集荷（前年比127%）】  
【にんにく乾燥・選果作業受託に加え、新たに植え付け作業受託を実施/  
平成30年にんにく出荷者が16名増の38名（昨年比238%）、  
植え付け作業74a（新）】  
【ピーマンの共選化を開始/  
平成30年ピーマン出荷者が23名増の99名（昨年比130%）】
- 業務機構を見直しし、支店体制の強化・充実化に向けた人員配置の実施。  
【平成30年4月に主な支店の業務係を金融係と経済係に分離し  
購買・販売部門を強化】